

成田・印西・白井・栄地区地域協議会

- 1 日 時 令和8年3月16日（月） 午後2時から午後4時30分
- 2 場 所 県立成田国際高校
- 3 出席者 別紙名簿のとおり（14名／16名）
- 4 概 要

【委員】

- ・基礎資料2 ページ目の高校の所在図で、この地図での成田北高校の位置がずれている。成田北は路線が交差したところの北側にある。今後この資料を使用する際は気をつけていただきたい。
- ・アンケートの結果について、印西市の回答が学年によって大きく開きがある。このアンケートの結果は今年度の結果でよいか。

《事務局》

- ・学校に回答の収集方法は任せている。昨年末から年始にかけて実施した

【委員】

- ・印西市では小学校でタブレットを使っており、「学校情報化優良校」もある。しかし、印旛明誠高校には普通科しかない。これら、IT や情報処理といった学びがない。印旛明誠高校にそのような学科を設置していただきたい。
- ・最近では IT 教材を使用した授業が多くある。この地区でも積極的に導入していただきたい。
- ・労働生産性を上げるためには、AI やロボットが必要だ。担い手不足は昔から言われている。
- ・印西、白井地区に普通科しかないので、印旛明誠でロボット、AI 教材を使用した授業を行って、学生の興味を引きつけ、次につなげて行けたらと思う。
- ・先日も県立高校で協議会が実施された。学校内設備に、まだ和式トイレが多く、会議の部屋にエアコンがないのを見て、県立高校も設備をよくして、学校までの交通の便をよくする対策が必要であると感じた。
- ・農業学科については、若い人が興味を持つような、ドローン使用した大規模農業についての教育・ロボットや機械化したスマート農業についての教育が必要だと思った。

【委員】

- ・下総みどり学園は義務教育学校9年間、統一したカリキュラムでやっている。

前期課程、後期課程の生徒が一緒に学んでいる。学園は下総高校の徒歩圏内で、佐原、小見川方面からも生徒を受け入れている。下総高校は下総みどり学園と連携し、交流させていただいている。1年生は芋掘り体験、7年生は情報処理の連携をしている。

- ・下総高校には地域との連携という面で、他の学校とは異なる特色がある。そういった特性も考慮して、今後のことを考えて欲しい。
- ・中学校卒業者の減少と地域性を見越し、推進プランに基づいて再編を進めてこられた流れとその難しさがよく分かった。
- ・地区が東西に幅広く、都市部と郊外部が共存する地域であるため、松戸、柏、船橋に出る地域と、成田市を中心とした地域と、佐原方面に含まれる地域を分けて考える必要があると思う。
- ・6校にはそれぞれの地域で必要な特色と確実なニーズを有している。通学方法の改善なども含めて、御検討いただければと思う。
- ・施設の老朽化対応と、デジタル環境の充実と活用、人材の育成（教員）は、公立学校共通の課題だと感じた。参考にさせていただく。
- ・県立高校改革に係る課題がよくわかり、大変参考になった。教育委員会内でも共有し、進路指導等に活かしていきたいと思う。

【委員】

- ・中学校籍なので、これからの県立高校の在り方について気にしている。
- ・適正規模・適正配置について、本市でも非常に考えてきた。総体で見れば、印西市は人口が増えている。
- ・魅力ある学校づくりをどうするべきかから、小さな学校にどうすれば通ってくれるのか、と考え方を変えつつある。
- ・都市部における再編で、多様な学びへの転換を、とあるが、高校における学びの転換は非常に重要だと考えている。
- ・印西市でも学びの転換を掲げている。児童が一斉に前を向く授業ではなく、主体的な学びができるような授業づくりをしようとしている。
- ・今、高校においては学びの転換がどれだけ進んでいるのか。高校には「総合的な探究の時間」がある。そこで何をしているのか。

《事務局》

- ・多様な学びへの転換について、例えば直近の「第2次実施プログラム」では、県立高校6校3組の統合を示した。
- ・八千代東高校・八千代西高校の統合では、普通科を維持するが、単位制を導入し、柔軟なカリキュラムを組めるように図る。また、不登校生徒の支援のため、

県立高校初の「学びの多様化学校」を導入する。募集学級のうち1学級で、コース制として行う。公立高校での導入例はまだ福岡県だけである。

- ・船橋豊富高校・船橋北高校の統合では、普通科を総合学科に改編する。総合学科では、1年生では同じ学びを、2年生以降は専門的な学びに分かれる。学びはいくつかの系列に分かれる。ここでは、福祉、情報(eスポーツ、アニメ)、スポーツ、普通、の系列の設定を想定している。
- ・沼南高校・沼南高柳高校の統合では、全日制普通科を大きく変えて、定時制・通信制の併置校にする。定時制の課程はかつて、勤労青少年のための課程であったが、現在は午前・午後・夜間の定時制があり、そのうち午前・午後の倍率が高い。ここでは午前・午後、昼間だけの定時制と、県内公立2校目となる通信制を置く。定時制は通常、卒業まで4年かかるが、別の時間帯か、通信制を併修すれば3年で卒業できるようにする。
- ・多様なニーズに応えられる学びを統合校で展開したいと考えている。

【委員】

- ・県立高校を抱える自治体として、都市計画と県立高校の関係性から御意見を申し上げる。
- ・印旛という地域において、成田は空港を抱えている。配布資料によると中学校卒業者が14年で3割減る。一方、空港関係で、2028年の新滑走路整備に向けて、発着回数を2032年までに50万回増やす目標がある。令和14年とされている。
- ・全国的に人口が減少するなか、空港内外での関係企業や従業員、家族を含めると、2032年には空港周辺4市町で4万人の人口増を見込む。成田市の推計では13.4万人の人口が2032年には13.7万人まで増える。2050年には15.1万人となるとされている。
- ・市街化区域内の開発適地はほぼ埋まっているので、企業、人口の受け皿の確保が重要と考えているなか、半世紀近くの歴史がある成田ニュータウンのリノベーションの検討や、区画整理事業などを行っている。情報提供である。
- ・また、人口増の内訳では外国の方が多い。成田ニュータウンでは3万人のうち1割が外国の方。ネパール人が一番多く、フィリピン人、スリランカ人、ベトナム人も増えている。外国の方への対応は難しい。これもまちづくりに必要な観点である。
- ・公共交通については、中心市街地から離れた地域にも滑河駅や下総松崎駅があるものの、駅までの足がない。下総高校、成田西陵高校がある地区は民間路線バスがない。交通空白地にコミュニティバスを走らせているが賄いきれていない、交通弱者は高齢者だけでなく中高生も対象となるが本数が少なく利用しづらい状

況。交通再編は喫緊の課題である。下総高校が所有しているマイクロバス等を生徒の駅からの通学用や地元住民で共有できないだろうか。

【委員】

- ・過去に特別支援教育課にいた経験がある。よく、なぜあの学校では通級指導をしていないとかと御指摘を受ける。通級指導が広がれば、多くの子供が公立高校を選択肢に入れるのではないか。
- ・専門高校、実業系の高校を義務教育籍の教員に見せる研修がある。地域の保護者に対し、専門高校では、ずっと専門の学びをやっているわけではないことを知っていただく必要がある。
- ・普通科の学びでは適応が難しいお子さんも、作業を通じて学校に行く楽しさを知ることもある。不登校の生徒数が増えている現状で、様々な学びに対応していただけることがよくわかった。
- ・保護者と生徒のアンケートが参考になった。生徒と保護者の思いがなるべく近いものになるよう理解を進める必要があると感じた。保護者のイメージで通信や実業系高校はちょっと、、、というイメージがどうしてもあると思う。
- ・高校通級の周知と推進が大切だと思った。やや下火となってきているかもしれないが、それが県立高校の強みの一つだとも思う。

【委員】

- ・本校には特別支援学級がある。成田西陵高校での通級指導に係る相談を受けることが多い。
- ・これまでの高校再編において、高校が離れて点在している点を考慮いただいていた点をよく理解している。今後も生徒数は減っていく中ではあるが、引き続き御配慮をお願いしたいと思う。
- ・本校は、駅からも若干離れていることもあり、学区外に希望する生徒が少なく、学区内の公立高等学校を希望する生徒が多い。学区内の高校の数が減ると、そのまま選択肢が減ることにつながるので、第4学区の学校は極力減らしてほしくないのが本音である。
- ・学校数が少なく、他の学区に出ていくのも困難を極める地域にとって、学校数減は切実な問題である。そこに配慮していただいている現在の考え方を継続して頂けたらと思う。
- ・県立高校の良いところとして、教育費を低減させることができるとの保護者回答が多かったが、本校でもまさに同じことが言える。就学支援金による授業料実質無償化が始まって、やはり私立は入学金、施設充実費などの諸経費がかかった

り、制服や旅行積立が県立高校より高かったりと、保護者にとっては今でもお金がかかるイメージが強い。「私立には通わせられません」という家庭が一定数いるのが本校の実態なので、県立高校の充実をお願いしたい。

- ・生徒が減っている中なので、よりきめ細かく多彩なニーズに応えられるよう、人員配置をしていただきたい。富里高校では外国人特別枠3名募集のところ12名の志願があったとのこと。また、成田国際高校の校長先生からは、外国人の入管手続きなどに担任がついていくなど、とても負担が大きいというお話があった。例えば成田国際高校に外国人クラスを作り、地域の外国人をたくさん集め、その代わりに外国人対応のための人員をしっかりと配置するなどすると良いと思った。その外国人クラスと一般クラスとの交流会を実施すると、学内で国際交流を図ることもできるのではないか。
- ・また、当日もお話しさせていただいたが、中学校の特別支援学級の生徒は進学先での適応に不安を抱いている。特別支援学級を設置する高等学校があると、進路の選択肢として幅が広がる。また、今後は実業系の学科にニーズがあるとの話が出た。成田市の中学校としては、地元に残って働くことのできる「航空系」の学科を設置できたら良いと思った。

《事務局》

- ・通級指導は15校で展開し、何かあればその学校で教員を融通しあっている。

【委員】

- ・通級指導は大変である。可能かわからないが、少人数の特別支援学級があればありがたい。
- ・本校の生徒は地元志向で、都市部への流出は少ない。地元に残りたい子の受入をすすめてきた。地元に残りたい生徒がいても、そこに仕事がないと出て行ってしまふ。実際多い。地元の生徒が地元で就職、仕事できる。空港で働くための学習ができればよいのではないか。

【委員】

- ・地域唯一の私立学校の校長をやっている。参加させていただきありがたい。
- ・本校は私立高校なので、下手をすればつぶれる。これは事実。本校としても近隣の人口推計をもとに、第4学区がどのように人口が変わっていくのか、その分析をしている。その分析の結果は、空港による人口増加は考えから抜いて、今の人口推計、0歳児の人数を見ると、その流出が0であれば、10年間は耐えられる。しかし、その後5年間で一気に人口が減ると分析している。また、さらに30年後も見て高校経営をしている。

- ・昔ながらの普通科で勉強すればいい時代が半世紀続いたが、今、本校は生徒のニーズを大切にしている。生徒が学力に合った学校を選びたいのはそのとおりで、本校は単位制で、幅広にやっている。
- ・英語が得意な子供には英語の高度な授業を、数学の遅れた子供には数学の基本から、生徒の成績に応じてクラス編成と授業の内容を変えている。
- ・中学生は進学実績を気にしている。
- ・一番重要なのは成田高校が普通科であること。普通科だと入れる大学が非常に広範囲になる。しかし、東京芸大に入りたい子供がいたとしても、音楽の授業を何時間もするわけにはいかない。そういう子供は音楽部に入ってもらおう。そこで音楽、例えば作曲をやりたいなら部活で指導する。
- ・「総合的な探究の時間」も非常に大切にしている。高2、3で本格化する。大学での卒論発表のような、プレゼンにも注力したいと考えている。

【委員】

- ・白井市は第2学区、第3学区に隣接している地域なので、第4学区内への進学は25%に満たない状況で、アクセスのよい都市部の高校に流出しているイメージである。
- ・高校は公共交通機関、鉄道やバスと切り離しては語れない。
- ・アンケートの結果を見ると、施設・設備老朽化問題についての回答が目立つ。
- ・人口が減る中で、施設も更新せねばならないとすれば、統合は辛いがやむを得ない。
- ・普通科から文系にいった生徒の皆が将来のイメージを持っているのか疑問である。
- ・小～高接続したキャリア教育が大切である。
- ・まちづくりとの連携は大切だが、これまで、地域と行政の接点を担ってきた自治会等が主体だとどうしてもシニア世代がメインになりがちである。まちづくりに高校を、生徒を参画させる取組がよい。
- ・AIの普及に伴い、ホワイトカラー系の職業は岐路に立たされている。今後の社会を見据えて実業系を重視した学びを取り入れたらどうか。

【委員】

- ・佐原高校の普通科も定員割れしたことに驚いている。
- ・学区廃止を求める生徒の声について報じた記事を見た。千葉は学区を残す数少ない県であるが、面積が広いので廃止済みの他県と一緒に語ることはできないこともわかっている。
- ・第4学区では、成田市が恵まれている。噂では、成田西陵と下総、どちらかに統

合すると聞いているが、この2校は残して欲しい。

- ・なぜならば私は一事業者として、地元高校を卒業し、地域へUターンしてきた人材に着目し、積極的に採用している。成田国際空港のような大きな組織と待遇面で競争することは容易ではなく、地域に根差し、地域を理解している人材の力を育てて欲しい。その意味でも、第4学区の高校は地域にとって大切な存在であり、できる限り残していただきたいと考えている。また、学区制度の廃止については、現在どのようなお考えをお持ちなのか、お伺いしたい。

《事務局》

- ・10年に一度、県立高校の基本的な在り方に係るプランを策定してきた。その策定にあたって、学区の在り方についても御意見を聞いてきた。学区廃止を求める意見もあるが、特に7~9学区の方から、学区廃止後の生徒流出を危惧する意見もある。これからは子供たちの意見も吸い上げ、検討を進めてまいりたい。

【委員】

- ・学区制が適用されるのは、全日制の普通科である。本校の国際関係の学科は全県一区であるが、実際は近隣学区、隣接県からも来る。
- ・現状、同一市内に2校、農業科を持つ学校があるものの、両校で定員割れとなっている。
- ・高校では、募集定員に対応した教員が配置される。これは法律で決まっており、メリハリを付けられない。定員割れの学校は教員あたりの生徒が減る。しかし、定員を充足している学校の側からの意見を言うと、余っている学校の教員をこちらに渡してくれないかと言いたい。
- ・コストパフォーマンスという言葉は使いたくないが、定員割れの学校をそのままに置いてよいのかと思うことがある。

【委員】

- ・大学でも定員充足率は大きな指標となっており、学部・学科の改編、淘汰も否応なしにやってくる。人口減少に伴う10組程度の統合は仕方がない。ただし、統合にあたっては特色をさらに付けなければならない。一番は施設・設備である。
- ・公立学校では、施設・設備面でも魅力付けが必要であり、私立の方が施設・設備面で魅力がある。
- ・加えて、今後、理系分野の人材不足が大きな課題になることが挙げられる。大学のみならず、高校の改編においても理系人材育成の視点が求められる。さらに、公立高校は外国籍の生徒、特別な配慮が必要な生徒等、多様な生徒のニーズに応えないといけない状況にある。

【委員】

- ・生徒数が減少している中、私立との共存について考えていく必要がある。
- ・公立高校は、交通の便、施設面で頑張る必要がある。一方、私立高校は、シャトルバスで生徒を集めている。
- ・成田市は大栄みらい学園で通学用にバスを13路線出している。バス1台あたり、1年で1000万円かかる。つまりここでは1億3千万円かかっていることになる。県もこのように通学の支援ができれば生徒は集まるだろう。しかしそのようなことはとてもできない。
- ・私学無償化の影響で、新中学3年生は私立高校に流れる。
- ・高校は募集定員で教員の配置数が決まるという話があった。小中学校は生徒数で教員の配置数が決まる。その中でも教員未配置が当たり前なのが現状だ。定員割れをしている高校から教員を回してほしい、と思うこともある。

【委員】

- ・少子高齢化、人口減が進む中、昼間のにぎわいづくりを考えていく中で、生徒の存在は重要だ。
- ・高校があれば交通が変わる。生徒が公共交通機関を使い、その結果、路線、車両数が確保される。その結果、その地域に住む他の利用者にも恩恵がある。
- ・白井高校は、倍率は平均を超えている。一方で、白井市の外から通学している生徒が多い。10年前のアンケートでは、白井市に愛着を持っている生徒は1割程度だった。
- ・町づくりの観点からすれば、生徒が地域に愛着を持ってくれることが大切である。ゆくゆくは、この地域で働きたいと思えるようになるからである。

【委員】

- ・印旛明誠高校は平成22年度に移転した。それ一つでも0Bからのハレーションはかなりあった。
- ・子供が減る中での統廃合はやむを得ないと思うが、高校は人流、関係人口を生み出す大切な施設である。
- ・跡地の活用を検討する際には、基礎自治体と検討段階から密接なやりとりをしていただきたい。

【委員（当日欠席）】

- ・送付された資料を見て県教委の皆様が詳細にデータを分析し、合理的かつ効果的な学校再編を実施されていることを実感した。

- ・理想は、ほとんどの子供が、高校は地域の学校に行き、そこから次の進路を選択することだと思うが、これを目指すのは現実的ではない。
- ・個人的な見解であるが、該当地域は地域によって交通利便性に大きな差がある。よって便の悪い地域ほど大切にしていきたい。
- ・全体としては、学習指導要領の縛りがあるので限界はあるだろうし、すでに実践されていることであるが専門的な知識または資格がとれる教育課程を編成し、私立高校との差別化を図る必要がある。
- ・オンラインで複数の学校の授業を受けられる、また、比較的、交通の便がよい地域では高校をひとつのキャンパスとして「1年次はA高、2,3年次はB高で学ぶ」ようなシステムも考えられる。
- ・大変なのは承知している。ハード面で対抗するのは難しいと思われるので、今までにない、あり得ない、そんな思い切った変革を起こして是非とも公立高校の存在意義を示していきたい。
- ・中学生を指導してきた感覚からすると、高校進学は保護者の影響（支援）も大きい。なので子供のニーズも大事だが、保護者のニーズにどのように応えるかが大きいと考える。公立高校のアピール対象として保護者にも焦点をあてる必要がある。
- ・保護者のアンケートを見るとやはり、施設や費用に関する回答が上位に来ている。この点で争うことは効率的でないと思う。次は「学力」が大きなポイントになる。現実的には学力がなければ行きたくても、行けない実態がある。次は専門性になる。そうすると前述した「専門的な知識または資格が取れる教育課程」になるかと思う。必要とされる資格や専門性も時代とともに変わっていくので難しいところではある。しかし、一定の子供たちにとって「高校で資格や専門的な知識が身につく」ことの意味は大きい。将来の夢や現実的な職業につながるからである。そのあたりの認識は保護者にもあると思われる。
- ・結論としては、多様な形（オンライン、複数校舎の利用等）で多様な資格・知識を身に付けられる学校にすることで生徒や保護者のニーズに応えてもらいたい。